

# ミサゴ渡り

平成 21 年 4 月 15 日発行

弓削野鳥の会編集発行

刻のたつのは

平山和昭



刻のたつのは早い。

一月は去ぬる。二月は逃げる。三月は去る、などといわれ、年明けのあわただしく過ぎ去る時を昔の人も思い、惜しんだのであろう。

ことしはいろいろ閑が多くなる予定で、足繁く山野を跋扈するにはもってこいの状況になる。ところが、である。ひまになるとかえってグータラになってしまったのだ。

バードウォッチングを始めた頃は、仕事から帰った後も、遠く佐島の枯れ木に鳥らしきものが見えればそこへ走り、休日には隣島生名とか岩城とかにも足を伸ばしたものだ。それがバードウォッチング歴何年と数えるようになると、かえって山野からも足が遠のき、全ての面で腰が重くなり、グーララにも庭にくる連中を眺めて

過ごす始末。どういう訳か山野に出ても期待通りの巡り会いが叶わず、むしろ庭で待っている方が結果はよろしいようで。とは只の言い訳で、つまりは意欲が乏しくなったということに違いない。



現実には山野での方が出会いは多いに決まっているが、それをただ眺めるだけではもう緊張感が保てないのかもしれない。

たとえば写真を撮るとか、鳴き声を録音するとか、バードウォッチングマップを新たに作るとか、新しい機材の購入に命をもやすとか、とにかく付帯した目的を作らねばダメなのかもしれない。

何年もやっていれば島内でのおよその種類、分布はわかってくるが、さりとしてそれを本当のデータとして活用できるかといえば、恥ずかしながら否と言わざるを得ないのが現実。情けない話だ。



来る日も来る日も野に出ていたあのころがなつかしい。

要は意欲だ。なにかの取り組みを始めなければ閑の値打ちがない。

はてさて、如何にすべきか。それが問題じゃ。

## カッコウ等に見る・・・・・・・・・・托卵習性

すでにご存知のとおり、カッコウ、ホトトギス等の他力本願的子育て習性、これらの仲間は、いずれも自分では巣を作らず、他の鳥の巣に卵を産みつけて、雛を育てさせるという、いわゆる「托卵」と

いう行動をとる。  
一クである。例え  
小さい鳥の巣に  
その仮親に育て



この習性もユニ  
バ、アオジなど  
卵を産みつけ、  
させる、その仮

親は、生みつけられた卵が孵化すると、すぐに仮親の“実子”を巣から担ぎ出して、仮親の愛情を独り占めにするのです。仮親は全面的に雛を自分の子だと思っているかということ、どうもそうでもないフシもある。卵を産みつけられると、仮親は、それに巣材を被せて粗大ごみとしたり、巣そのものを放棄したりするものも少なくない。にもかかわらず仮親が他人の子を育てるのは、雛にあの真紅の口を見せられると、生理的に「あっ、食べ物をはこばなくっちゃ」と、生まれながらの衝動に駆られてしまうからである。カッコウは、1シーズンに10個以上の卵を産みつけて、あちこちにそんなご迷惑をお掛けしているらしい。（『寄鳥見鳥』岩本久則より）

野鳥のヒナが地面にいるときはそのまま、静かに見守りましょう。

近くで親鳥がヒナを見守っています。野鳥は、巣立ち後、親鳥と過ごすわずかな期間（1週間から1ヶ月）に「何が食べ物で、何が危険か」などを学習



して独り立ちします。春から夏にかけて野鳥の子育て期間になります。自然は自然の掟で淘汰されていきます。人間が横から手助けすると自然界のバランスが崩れる虞があります。自然は自然のままに！

### ※愛鳥週間（5月10日～5月16日）

野鳥愛護のために設けられた1週間、バードウィークです。本来の目的は繁殖期に入った野鳥に対して障害にならないように配慮し、併せて野鳥とそれを取り巻く環境について再確認するものです。

### 身近な鳥たち写真展

☆ 愛媛銀行 弓削支店にて開催中

野鳥たちが自然の中で、愛らしく生きる姿を御覧下さい。また、同時に自然環境、地球環境についても関心を持っていただければと思います。



## 平成 21 年度弓削野鳥の会活動計画

集合場所：公民館 （午前 9：00 集合）

開催日	活動内容	場所	備考
4月26日	夏鳥を探そう	三山方面	
5月31日	(町外遠征予定) 渡り鳥の観察	尾道市御調町 (ふれあいの里)	AM7:10 集合 オオルリ
6月28日	水辺の鳥の観察	佐島方面	バン・カイツブリ
7月26日	ツバメの観察	上弓削方面	
8月30日	弓削の野鳥 (バードリスニング)	三山周辺	ホトトギス・ツツドリ
9月27日	渡り鳥の観察	狩尾方面	ヒタキ類
10月25日	冬鳥の観察	日比方面	
11月29日	猛禽類の識別	狩尾・大谷方面	ノスリ
12月20日	冬鳥の観察	日比・鎌田方面	
1月31日	町外遠征	四国方面	
2月28日	冬鳥の観察	松原・日比方面	
3月28日	春を探そう	三山周辺	

※雨天の場合は中止

※都合により日時が変更になることがあります。その際には連絡網で回します。

※公民館に集合し、それぞれの車に分乗し観察場所まで行く。

※参加者は各自必ずゴミ袋を持参し、放置されている空き缶などのゴミを拾う等、自然環境の美化に努める。

◎島外観察については旅費：実費個人負担とする。また、弁当等についても各自準備すること。